

2020年6月5日

株 主 各 位

東京都杉並区上井草一丁目33番5号

株式会社ニチリョク

代表取締役会長兼社長 寺村久義

第54期定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。

さて、当社第54期定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申しあげます。

なお、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染が拡大している状況を踏まえ、株主様の安全確保並びに感染拡大防止のため、株主様には可能な限り書面による議決権の事前行使をお願い申しあげると共に、株主総会にご来場される株主様におかれましては、マスク着用等のご配慮をお願い申しあげます。

書面による議決権の事前行使にあたりましては、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討のうえ、同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、2020年6月19日(金曜日)午後5時までに到着するようご返送くださいますようお願い申しあげます。

敬 具

記

1. 日 時 2020年6月22日(月曜日) 午前10時
2. 場 所 東京都中野区中野四丁目1番1号
中野サンプラザ 14階 クレセントルーム
(末尾の「株主総会会場ご案内図」をご参照ください。)
3. 目的事項
報告事項 第54期(2019年4月1日から2020年3月31日まで)
事業報告及び計算書類報告の件
決議事項
第1号議案 剰余金の処分の件
第2号議案 取締役2名選任の件
第3号議案 監査役2名選任の件
第4号議案 退任監査役に対し退職慰労金贈呈の件

以 上

~~~~~  
当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申しあげます。

なお、株主総会参考書類並びに事業報告、計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト(アドレス<http://www.nichiryoku.co.jp>)に掲載させていただきます。

(添付書類)

## 事業報告

(2019年4月1日から  
2020年3月31日まで)

### 1. 会社の現況

#### (1) 当事業年度の事業の状況

##### ① 事業の経過及び成果

当事業年度におけるわが国経済は、米中貿易摩擦の一部緩和があったものの、消費税率改正に伴う消費者態度指数の急激な悪化と共に、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が世界中で猛威を振るい、先行きが見通せない形で終えました。

当社が属するメモリアル産業は、高齢者が増加傾向にあるにもかかわらず、霊園事業においては、埋葬の選択肢の多様化に伴い、比較的高価格となる墓地墓石の購入層は年々減少する傾向にあります。

一方、首都圏に永住される消費者が所有する故郷のお墓を引っ越しする需要は、緩やかに増加しております。

この流れに対応すべく当社は、消費者に寄り添った様々なお墓の形態を兼ね備えた霊園を開発すると共に、供養の全てを網羅し、価格においてもご満足いただける堂内陵墓事業への拡充を図っております。

葬祭事業においては、超高齢化を背景に葬儀の小規模化傾向が一層顕著となる中、インターネット媒体を中心とした同業者間の価格競争により、施行単価が下落するという厳しい環境下にあるものの、生花祭壇葬「愛彩花(あいさいか)」と共に、家族葬を専門とした「ラステル葬」は消費者から安定した支持を受けており、施行件数は順調に増加しました。

しかしながら、昨年10月の消費税率改正に起因した消費意欲の減退並びに新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、霊園や堂内陵墓の来園者数は減少しました。

以上の結果、当事業年度の業績は、売上高31億6千9百万円（前事業年度比2.9%減）、営業利益1億7千1百万円（同1.5%減）、経常利益1億2百万円（同1.9%減）、また、投資有価証券売却益5千3百万円を特別利益として計上した結果、当期純利益1億4千万円（同179.1%増）となりました。

事業別の状況は次のとおりであります。

#### 霊園事業

屋外墓地につきましては、高齢者の増加により成約件数は順調に増加しているものの、埋葬に対する価値観の変化や選択肢の多様化に伴い、比較的高価格となる墓地墓石の購入層は年々減少の一途にあります。

それに対し、樹木墓や共有墓等の需要は急激に増加し、施工単価の下落がより顕著化している状況を踏まえ、募集販売を受託している既存霊園の改造等、販売戦略の見直しを適宜行っております。

しかしながら、様々な施策を打ち出しているものの、消費税増税や新型コロナウイルス感染拡大による来園者数の減少が顕著化し、歯止めをかけるには至りませんでした。

売上高は、11億7千5百万円(前事業年度比10.4%減)となりました。

#### 堂内陵墓事業

第六号「赤坂一ツ木陵苑(東京都港区)」並びに第七号「大須陵苑(名古屋市中区)」は、消費者の価値観を超える重厚な施設と立地が好評を得ております。

しかしながら、近年、特に東京都内において、主に団塊の世代をターゲットとした納骨堂(自動搬送式を含む)の建設ラッシュがあり、現状においては供給過多の環境下にあります。

このような状況を踏まえ、徹底した広告戦略の見直しを行い、消費税増税や新型コロナウイルス感染拡大の影響は拭えないものの、僅かながら集客力回復の兆しが見えてきました。

売上高は、2億9千3百万円(前事業年度比1.2%増)となりました。

#### 葬祭事業

死亡者数が年々増加傾向にある中、当社は終活セミナーや様々なイベントを開催し、潜在顧客を受注に繋げる取り組みを積極的に行っております。

会員制の生花祭壇葬「愛彩花」並びに家族葬、直葬施設を併設した独自のブランド「ラステル(ラストホテル)」は、「小規模でありながらも心のこもった葬儀」を望む現代の消費者から好評を得ております。

また、マスメディアにも多数取り上げられ認知度は確実に高まっており、施行件数は順調に増加しました。

売上高は、17億円(前事業年度比2.4%増)となりました。

#### ② 設備投資の状況

当事業年度中の設備投資総額は、3百万円であります。

#### ③ 資金調達の状況

当事業年度中に、当社の所要資金として、金融機関より長期借入金として18億7千万円及び短期借入金として3億2千5百万円の調達を行いました。

## (2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況

| 区 分                                   | 第 5 1 期<br>2017年3月期 | 第 5 2 期<br>2018年3月期 | 第 5 3 期<br>2019年3月期 | 第 5 4 期<br>(当事業年度)<br>2020年3月期 |
|---------------------------------------|---------------------|---------------------|---------------------|--------------------------------|
| 売 上 高 (百万円)                           | 3,919               | 3,509               | 3,262               | 3,169                          |
| 経常利益又は<br>経常損失 (△) (百万円)              | 124                 | △37                 | 104                 | 102                            |
| 当期純利益又は<br>当期純損失 (△) (百万円)            | 91                  | △485                | 50                  | 140                            |
| 1株当たり当期純利益又<br>は1株当たり当期純損失 (円)<br>(△) | 7.36                | △388.63             | 40.20               | 114.97                         |
| 総 資 産 (百万円)                           | 11,571              | 9,930               | 9,710               | 9,263                          |
| 純 資 産 (百万円)                           | 3,744               | 3,211               | 3,242               | 3,243                          |
| 1株当たり純資産 (円)                          | 299.62              | 2,570.26            | 2,594.95            | 2,796.98                       |

- (注) 1. 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失(△)は、自己株式を控除した期中平均発行済株式総数により、1株当たり純資産は、自己株式を控除した期末発行済株式総数により算出しております。
2. 当社は、2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合をもって株式併合を行っておりますが、第52期の期首に当該株式併合が行われたものと仮定して1株当たり当期純利益又は当期純損失(△)及び1株当たり純資産を算定しております。なお、第51期の1株当たり当期純利益及び1株当たり純資産につきましては、当該株式併合前の数値を記載しております。

## (3) 重要な親会社及び子会社の状況

該当事項はありません。

#### (4) 対処すべき課題

当社は、第55期期首より営業戦略をより効率的且つ流動的に行うことを目的として、霊園事業と堂内陵墓事業を統合し「お墓事業」といたしました。

屋外墓地につきましては、好立地、好ロケーションを重視した新規霊園の開発及び募集販売実績のある霊園の増設、改造を中心に行うと共に、関係寺院及び墓地候補地の見極めを一層強化し適宜対処する所存であります。

堂内陵墓につきましては、特に東京都内における納骨堂(自動搬送式を含む)の建設ラッシュは一服すると思われるものの、劇的な売上高の回復には一定期間かかることを想定しております。消費者のニーズを見極め、抜本的な広告及び販売戦略を見直し、収益を追求する体制を構築して参ります。

葬祭事業につきましては、愛彩花葬の受注拡大には生前予約をいただくことが不可欠であります。その会員組織である「愛彩花倶楽部」の会員獲得と共に、終活セミナーや様々なイベント等をより積極的に開催し、潜在顧客を受注に繋げる施策を打って参ります。また、「ラステル」を軸とした愛彩花倶楽部会員以外の一般顧客向け家族葬、直葬による受注拡大を図り、当社の中核をなす事業となるよう進めて参ります。

財務につきましては、現在及び将来にわたって必要な営業活動及び債務の返済等に備えるため、営業活動により得られたキャッシュ・フロー及び金融機関からの借入を基本としております。

これら営業及び財務活動により調達した資金は、事業運営上必要な流動性を確保することに努め、機動的且つ効率的に使用することに加え、有形固定資産や投資その他の資産の流動化を推し進め、財務体質の改善に繋げて参ります。

また、世界的大流行となっている新型コロナウイルス感染症(COVID-19)につきましては、完全収束が見通せない状況下であり、消費者の外出自粛傾向が今後も継続しますと、お墓事業は来園者(見学者)数の減少、葬祭事業では会葬者の減少等の顕著化が想定されます。

石材の仕入れについても、ほぼ100%中国より輸入しており、当国においてはコロナ禍が収束に向かっているとの報道があるものの、第2波、第3波が襲う可能性もゼロではなく、国内で調達することになれば、原価率の高騰が懸念されます。

なお、当社の商品は主に対面による受注であります。この状況が長期化する場面では、抜本的な営業戦略の見直しが必要となり、仮想化見学や葬儀等の環境を構築する機会にあるものと認識しております。

(5) 主要な事業内容 (2020年3月31日現在)

墓地・墓石の企画、販売、施工

納骨堂の企画、販売受託

葬儀・法事の施行、仏壇・仏具、返礼品の販売

(6) 主要な営業所及び工場 (2020年3月31日現在)

本社：東京都杉並区上井草一丁目33番5号

日の出工場：東京都西多摩郡日の出町大久野7012

葬祭事業部：東京都練馬区谷原五丁目4番20号

ラステル久保山：神奈川県横浜市西区境之谷4番2号

ラステル新横浜：神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目15番19号

支店：多摩、横浜、東葛、朝霞、赤坂、名古屋

営業所：京都、大阪

管理事務所：多摩、西日暮里、赤塚、高島平(2ヵ所)、朝霞東、  
八千代、横浜三保

(7) 使用人の状況 (2020年3月31日現在)

当社の使用人の状況

| 使用人数      | 前事業年度末比増減 | 平均年齢  | 平均勤続年数 |
|-----------|-----------|-------|--------|
| 112 (71)名 | 3名減 (1名減) | 46.2歳 | 10.2年  |

(注) 使用人数は就業員数であり、パート及び嘱託社員は ( ) 内に年間の平均人員を外数で記載しております。

(8) 主要な借入先の状況 (2020年3月31日現在)

| 借 入 先                   | 借 入 額       |
|-------------------------|-------------|
| 東 京 信 用 金 庫             | 1,575,253千円 |
| 株 式 会 社 り そ な 銀 行       | 536,666千円   |
| 株 式 会 社 三 菱 U F J 銀 行   | 420,025千円   |
| 株 式 会 社 三 井 住 友 銀 行     | 406,670千円   |
| 株 式 会 社 商 工 組 合 中 央 金 庫 | 390,000千円   |
| 株 式 会 社 千 葉 銀 行         | 285,000千円   |
| 株 式 会 社 横 浜 銀 行         | * 255,580千円 |
| 株 式 会 社 第 四 銀 行         | 241,260千円   |
| 株 式 会 社 き ら ぼ し 銀 行     | 153,750千円   |
| 株 式 会 社 滋 賀 銀 行         | 141,671千円   |

(注) 借入金残高には協調融資団によるものが含まれております。

協調融資団の内容

\* 幹 事 株式会社横浜銀行

参 加 行 2行

総融資金額 94,080千円

(9) その他会社の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

## 2. 当社の株式に関する事項

### (1) 株式の状況（2020年3月31日現在）

- |              |            |
|--------------|------------|
| ① 発行可能株式総数   | 4,800,000株 |
| ② 発行済株式の総数   | 1,374,101株 |
| ③ 株主数        | 2,290名     |
| ④ 単元株式数      | 100株       |
| ⑤ 大株主（上位10名） |            |

| 株 主 名               | 持 株 数 | 持 株 比 率 |
|---------------------|-------|---------|
| 株 式 会 社 エ ム エ ス シ ー | 169千株 | 14.61%  |
| 阪 田 和 弘             | 64千株  | 5.54%   |
| 寺 村 久 義             | 53千株  | 4.57%   |
| 佐 藤 兼 義             | 48千株  | 4.17%   |
| 株 式 会 社 カ ス タ ム     | 44千株  | 3.80%   |
| 日 本 生 命 保 険 相 互 会 社 | 40千株  | 3.44%   |
| 佐 藤 創 也             | 35千株  | 3.01%   |
| 東 京 信 用 金 庫         | 18千株  | 1.55%   |
| ク オ レ 株 式 会 社       | 16千株  | 1.38%   |
| 生 熊 枝 折             | 15千株  | 1.35%   |

(注) 1. 当社は、自己株式を214,628株保有しておりますが、上記大株主からは除外しておりません。

2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

### (2) 新株予約権等の状況

該当事項はありません。

### 3. 会社役員に関する事項

#### (1) 取締役及び監査役の状況（2020年3月31日現在）

| 地 位                    | 氏 名       | 担 当 及 び 重 要 な 兼 職 の 状 況                                                                               |
|------------------------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 代 表 取 締 役<br>会 長 兼 社 長 | 寺 村 久 義   | 社長執行役員サービス推進本部長<br>株式会社エムエスシー 代表取締役                                                                   |
| 取 締 役                  | 五 嶋 美 樹   | 上席執行役員経営統括本部長                                                                                         |
| 取 締 役                  | 寺 村 公 陽   | 上席執行役員サービス推進本部お客様サポート部<br>長                                                                           |
| 取 締 役                  | 宮 下 利 明   | 上席執行役員サービス推進本部堂内陵墓事業部長                                                                                |
| 取 締 役                  | 藤 澤 英 樹   | 上席執行役員サービス推進本部霊園事業部長<br>兼開発事業部長                                                                       |
| 取 締 役                  | 古 内 耕 太 郎 | 経営デザイン・Partners株式会社 代表取締役<br>HMd株式会社 取締役<br>株式会社ウェルクス 社外取締役<br>株式会社コアクラシック 社外取締役<br>学校法人茂来学園大日向小学校 監事 |
| 常 勤 監 査 役              | 宮 崎 芳 光   |                                                                                                       |
| 監 査 役                  | 藤 原 道 夫   | 公認会計士                                                                                                 |
| 監 査 役                  | 丸 野 登 紀 子 | 弁護士<br>株式会社地域新聞社 社外監査役<br>ライト工業株式会社 社外監査役                                                             |

- (注) 1. 取締役古内耕太郎氏は、社外取締役であります。
2. 監査役藤原道夫氏及び丸野登紀子氏は、社外監査役であります。
3. 監査役藤原道夫氏は、公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
4. 監査役丸野登紀子氏は、弁護士の資格を有しており、法務に関する相当程度の知見を有しております。
5. 当事業年度中の取締役の異動は次のとおりであります。
- ①2019年6月24日開催の第53期定時株主総会終結の時をもって、取締役小田部裕行氏は任期満了により退任いたしました。
- ②2019年6月24日開催の第53期定時株主総会終結の時をもって、取締役矢田欣也氏は辞任により退任いたしました。
- ③2019年6月24日開催の第53期定時株主総会において、古内耕太郎氏は新たに社外取締役に選任され就任いたしました。
6. 当社は、社外監査役丸野登紀子氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

#### (2) 責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役及び各監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める額であります。

### (3) 取締役及び監査役の報酬等

#### イ. 当事業年度に係る報酬等の総額

| 区 分                | 員 数       | 報 酬 等 の 額           |
|--------------------|-----------|---------------------|
| 取 締 役<br>(うち社外取締役) | 8名<br>(1) | 64,303千円<br>(4,753) |
| 監 査 役<br>(うち社外監査役) | 3<br>(2)  | 11,050<br>(3,250)   |
| 合 計                | 11        | 75,353              |

- (注) 1. 上表には、2019年6月24日開催の第53期定時株主総会終結の時をもって退任した取締役2名を含んでおります。
2. 取締役の報酬等の総額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
3. 取締役の報酬限度額は、1999年6月24日開催の第33期定時株主総会において、年額150,000千円以内と決議いただいております。
4. 監査役の報酬限度額は、1995年6月30日開催の第29期定時株主総会において、年額50,000千円以内と決議いただいております。
5. 上表の報酬等の額には、当事業年度における役員退職慰労引当金の繰入額6,043千円（取締役6名に対し5,313千円（うち社外取締役1名1,353千円）、監査役3名に対し730千円（うち社外監査役2名130千円））が含まれております。

#### ロ. 当事業年度において支払った役員退職慰労金

2019年6月24日開催の第53期定時株主総会決議に基づき、同総会終結の時をもって退任した取締役2名及び2018年2月28日をもって辞任により退任した取締役1名に支払った役員退職慰労金は以下のとおりであります。

取締役3名 23,655千円

（金額には、過年度の事業報告において役員の報酬等の総額に含めた役員退職慰労引当金の繰入額として、41,300千円が含まれております。）

#### (4) 社外役員に関する事項

イ. 他の法人等との重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係

- ・社外取締役古内耕太郎氏は、経営デザイン・Partners株式会社の代表取締役、HMd株式会社の取締役、株式会社ウェルクスの社外取締役、株式会社コアクラシックの社外取締役及び学校法人茂来学園大日向小学校の監事であります。全ての法人と当社との間には特別な関係はありません。
- ・社外監査役丸野登紀子氏は、株式会社地域新聞社の社外監査役及びライト工業株式会社の社外監査役であります。当社は、株式会社地域新聞社との間に広告掲載の取引関係があります。ライト工業株式会社と当社との間には特別な関係はありません。

ロ. 当事業年度における主な活動状況

|       |       | 出席状況及び発言状況                                                                                                                                                                   |
|-------|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 社外取締役 | 古内耕太郎 | 2019年6月24日就任以降、当事業年度に開催された取締役会11回のうち10回に出席いたしました。主に長年におたる企業経営の豊富な経験と実績を生かし、経営から独立した客観的、中立的な立場から、取締役会の意思決定の妥当性、適正性を確保するための発言を行っております。                                         |
| 社外監査役 | 藤原 道夫 | 当事業年度に開催された取締役会13回のうち12回に、また、監査役会13回のうち12回に出席いたしました。公認会計士としての専門的見地から、取締役会において、取締役会の意思決定の妥当性、適正性を確保するための発言を行っております。また、監査役会において、当社の経理システム並びに内部監査について適宜、必要な発言を行っております。          |
| 社外監査役 | 丸野登紀子 | 当事業年度に開催された取締役会13回のうち12回に、また、監査役会13回のうち12回に出席いたしました。弁護士として法律に関する専門的な知識と経験から、取締役会において、取締役会の意思決定の妥当性、適正性を確保するための発言を行っております。また、監査役会において、監査結果についての意見交換等、専門的見地から適宜、必要な発言を行っております。 |

## 4. 会計監査人に関する事項

(1) 名称 EY新日本有限責任監査法人

### (2) 報酬等の額

|                                | 報 酬 等 の 額 |
|--------------------------------|-----------|
| 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額            | 21,500千円  |
| 当社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 21,500千円  |

- (注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。
2. 監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠等が適切であるかどうかについて必要な検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等について同意の判断をいたしました。

### (3) 非監査業務の内容

該当事項はありません。

### (4) 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

当社は会計監査人の解任、不再任等の決定の方針を次のとおりとしております。

- ① 会計監査人の選任、解任及び不再任は、監査役会において、これを株主総会の付議議案とする旨決議する。会計監査人の再任については、監査役会にて決議する。
- ② 当社都合の場合の他、会計監査人が、会社法、公認会計士法等の法令に違反又は抵触した場合、公序良俗に反する行為があった場合及び監査契約に違反した場合、会計監査人の解任又は不再任を株主総会の付議議案とすることが妥当かどうかを監査役会にて検討する。
- ③ 監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当する場合は、監査役の全員の同意に基づき会計監査人を解任することができる。

## 5. 業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況

### (1) 業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要

取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制  
その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要は以下のとおりであります。

#### ① 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

イ. 当社は、法令及び定款の遵守体制の実効性を確保するため、社長を委員長とする定例の「コンプライアンス委員会」を設置する。コンプライアンス委員会は、全社の法令及び定款の遵守状況を確認し、コンプライアンス体制の維持、向上を図る。

ロ. 当社の事業に従事する者からの法令違反行為等に関する通報に対して適切な処理を行うため、ホットラインを設置し運営する。また是正、改善の必要があるときには、速やかに適切な措置をとる。

ハ. 内部監査室は、全社の法令及び定款の遵守体制の問題及びコンプライアンス上の問題の有無の調査に努める。

ニ. 当社は、市民社会の秩序に脅威を与える団体や個人など、いわゆる反社会的勢力からの働きかけに対して毅然と対応し、不当要求に応じない。

ホ. 当社は、財務報告の信頼性・適正性を確保するため、必要な内部統制の体制を整備する。

#### ② 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

イ. 当社は、取締役の職務の執行に係る文書（電磁的記録を含む。）、その他の情報の取扱いについて「文書管理規程」を整備し、これらの情報の保存及び管理体制を構築する。

ロ. 当社は取締役の職務の執行に係る文書、その他の情報は、取締役または監査役からの要請があった場合に備え、閲覧可能な状態を維持する。

#### ③ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

イ. 事業活動に伴う各種のリスクについては、それぞれの主管部署において対応策の検討を行う。また、全社的に重大な損害を与えるリスクについては、取締役会において対応策の検討を行う。

ロ. 万一、損失の危険が発生した場合においても、取締役会がその対応を統括することで被害の最小化を図る。

ハ. 内部監査室は、リスク管理体制について監査を行う。主管部署及び監査を受けた部署は、是正、改善の必要があるときには、速やかにその対策を講じる。

- ④ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- イ. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するため、取締役会の運営に関する規定を定めるとともに、取締役会を原則として月1回開催するほか、必要に応じて適宜臨時に開催する。
  - ロ. 経営効率の向上及び意思決定の迅速化を図るため、取締役及び執行役員からなる会議を原則として月1回開催し、当社の全般的な重要事項について審議する。
- ⑤ 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項
- 監査役会の要請により、監査役スタッフとして、監査職務を円滑に遂行するために必要な人員を配置する。
- ⑥ 前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項及び当該使用人に対する監査役の指示の実効性の確保に関する事項
- 前項の監査役スタッフは、監査役の職務を補助するときは、取締役の指揮命令を受けない。
- ⑦ 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制
- イ. 取締役会及び重要な経営会議については、監査役の出席を確保する。
  - ロ. 取締役及び使用人は、経営、業績に影響を及ぼすリスクが発生した場合、または事業活動の遂行に関連して重大な法令違反行為等を認識した場合、直ちに監査役に報告を行う。
  - ハ. 監査役の要請に応じ、取締役及び使用人は、事業及び内部統制の状況等の報告を行い、内部監査室は内部監査の結果等を報告する。
- ⑧ その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- 当社は、監査役が、会計監査人、取締役、各部署から定期的に報告を受け、また各々と随時意見交換を行うことができる体制を整備する。

## (2) 業務の適正を確保するための体制の運用状況

### ① コンプライアンス

当社は、法令及び定款の遵守体制の実効性を確保・啓蒙するため、社長を委員長とする「コンプライアンス委員会」を当事業年度において3回開催いたしました。当委員会は、コンプライアンス体制の構築及び見直し、違反事案や内部通報事案についての調査、分析、再発防止策の協議等も併せて行っております。使用人に対しては、コンプライアンスに関する意識向上のため、社内教育を定期的実施しております。

## ② リスク管理

当社は、リスク管理の方針を定め、取締役会においてリスク管理に係る評価及び対応策の検討を行うとともに、再発防止に努めております。

## ③ 内部統制システム

当社は、内部監査室による業務及び内部統制監査を通して、内部統制システム全般の整備、運用状況の評価及び改善を実施しております。また、金融商品取引法に基づく「財務報告に係る内部統制の有効性評価」を行っており、当事業年度においては、開示すべき重要な不備及び欠陥はございませんでした。

## ④ 監査役の監査体制

当社の監査役会は、社外監査役2名を含む監査役3名で構成されております。監査役会は当事業年度において13回開催し、監査役は、取締役会のほか、執行役員会その他重要な会議に出席し情報収集に努め、取締役の職務執行が法令及び定款に違反していないかを監査しております。

## 6. 剰余金の配当等の決定に関する方針

当社は、利益配分につきましては、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、期末配当の年1回の剰余金の配当を継続して実施していくことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当事業年度の期末配当金につきましては、上記方針に基づき1株当たり30円といたしたく存じます。この結果、当事業年度の配当性向は26.1%となります。

内部留保資金につきましては、今後予想される経営環境の変化に対応すべく、今まで以上にコスト競争力を高め、消費者ニーズに応える商品開発体制を強化するために有効投資して参りたいと考えております。

当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し、会社法第454条第5項に定める剰余金の中間配当をすることができる。」旨を定款に定めております。

# 貸借対照表

(2020年3月31日現在)

(単位：千円)

| 資 産 の 部  |           | 負 債 の 部   |           |
|----------|-----------|-----------|-----------|
| 科 目      | 金 額       | 科 目       | 金 額       |
| 流動資産     | 2,355,556 | 流動負債      | 2,436,123 |
| 現金及び預金   | 1,666,352 | 買掛金       | 77,094    |
| 完成工事未収金  | 28,456    | 短期借入金     | 1,740,409 |
| 売掛金      | 191,284   | 1年内償還予定社債 | 204,750   |
| 永代使用権    | 178,218   | 未払金       | 66,598    |
| 未成工事支出金  | 163,643   | 未払法人税等    | 13,903    |
| 原材料及び貯蔵品 | 67,234    | 未成工事受入金   | 110,080   |
| その他      | 60,386    | 預り金       | 86,076    |
| 貸倒引当金    | △19       | 賞与引当金     | 28,100    |
| 固定資産     | 6,908,169 | その他       | 109,110   |
| 有形固定資産   | 2,745,331 | 固定負債      | 3,584,584 |
| 建物       | 698,393   | 長期借入金     | 2,910,561 |
| 構築物      | 4,087     | 社債        | 115,000   |
| 機械装置     | 149       | 退職給付引当金   | 326,392   |
| 車輛運搬具    | 98        | 役員退職慰労引当金 | 147,469   |
| 工具器具備品   | 14,624    | その他       | 85,162    |
| 土地       | 2,027,978 | 負債合計      | 6,020,708 |
| 無形固定資産   | 134,334   | 純資産の部     |           |
| ソフトウェア   | 113,133   | 株主資本      | 3,252,487 |
| 電話加入権    | 21,201    | 資本金       | 1,306,842 |
| 投資その他の資産 | 4,028,502 | 資本剰余金     | 958,082   |
| 出資金      | 6,120     | 資本準備金     | 958,082   |
| 長期貸付金    | 70,867    | 利益剰余金     | 1,303,039 |
| 長期前払費用   | 16,194    | 利益準備金     | 96,139    |
| 保険積立金    | 227,483   | その他利益剰余金  | 1,206,899 |
| 差入保証金    | 3,123,133 | 別途積立金     | 1,260,000 |
| 長期未収金    | 365,904   | 繰越利益剰余金   | △53,100   |
| 繰延税金資産   | 163,434   | 自己株式      | △315,476  |
| その他      | 85,455    | 評価・換算差額等  | △9,469    |
| 貸倒引当金    | △30,090   | 繰延ヘッジ損益   | △9,469    |
| 資産合計     | 9,263,726 | 純資産合計     | 3,243,018 |
|          |           | 負債純資産合計   | 9,263,726 |

(注) 金額は、千円未満を切捨てて表示しております。

# 損 益 計 算 書

(2019年4月1日から)  
(2020年3月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目                     | 金      | 額         |
|-------------------------|--------|-----------|
| 売 上 高                   |        | 3,169,188 |
| 売 上 原 価                 |        | 1,001,049 |
| 売 上 総 利 益               |        | 2,168,138 |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費     |        | 1,996,474 |
| 営 業 利 益                 |        | 171,663   |
| 営 業 外 収 益               |        |           |
| 受 取 利 息 及 び 配 当 金       | 14,791 |           |
| そ の 他                   | 23,927 | 38,719    |
| 営 業 外 費 用               |        |           |
| 支 払 利 息                 | 89,894 |           |
| そ の 他                   | 17,708 | 107,603   |
| 経 常 利 益                 |        | 102,779   |
| 特 別 利 益                 |        |           |
| 固 定 資 産 売 却 益           | 517    |           |
| 投 資 有 価 証 券 売 却 益       | 53,640 | 54,157    |
| 特 別 損 失                 |        |           |
| 霊 園 開 発 中 止 損           | 6,429  | 6,429     |
| 税 引 前 当 期 純 利 益         |        | 150,508   |
| 法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税 | 9,732  |           |
| 法 人 税 等 調 整 額           | 568    | 10,301    |
| 当 期 純 利 益               |        | 140,206   |

(注) 金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

# 株主資本等変動計算書

(2019年4月1日から)  
(2020年3月31日まで)

(単位：千円)

|                                 | 株 主 資 本   |         |           |           |               |              |          |            |
|---------------------------------|-----------|---------|-----------|-----------|---------------|--------------|----------|------------|
|                                 | 資 本 金     | 資本剰余金   | 利 益 剰 余 金 |           |               |              | 自己株式     | 株主資本計<br>合 |
|                                 |           | 資本準備金   | 利益準備金     | その他利益剰余金  |               | 利益剰余金<br>合 計 |          |            |
|                                 |           |         |           | 別途積立金     | 繰越利益<br>剰 余 金 |              |          |            |
| 2019年4月1日 残高                    | 1,306,842 | 958,082 | 96,139    | 1,260,000 | △193,306      | 1,162,832    | △228,293 | 3,199,463  |
| 事業年度中の変動額                       |           |         |           |           |               |              |          |            |
| 剰余金の配当                          |           |         |           |           |               |              |          |            |
| 当期純利益                           |           |         |           |           | 140,206       | 140,206      |          | 140,206    |
| 自己株式の取得                         |           |         |           |           |               |              | △87,182  | △87,182    |
| 株主資本以外の<br>項目の事業年度中の<br>変動額(純額) |           |         |           |           |               |              |          |            |
| 事業年度中の変動額合計                     | —         | —       | —         | —         | 140,206       | 140,206      | △87,182  | 53,024     |
| 2020年3月31日 残高                   | 1,306,842 | 958,082 | 96,139    | 1,260,000 | △53,100       | 1,303,039    | △315,476 | 3,252,487  |

|                                 | 評 価 ・ 換 算 差 額 等  |         |                        | 純資産合計     |
|---------------------------------|------------------|---------|------------------------|-----------|
|                                 | その他有価証券<br>評価差額金 | 繰延ヘッジ損益 | 評 価 ・ 換 算<br>差 額 等 合 計 |           |
| 2019年4月1日 残高                    | 55,440           | △12,461 | 42,978                 | 3,242,441 |
| 事業年度中の変動額                       |                  |         |                        |           |
| 剰余金の配当                          |                  |         |                        |           |
| 当期純利益                           |                  |         |                        | 140,206   |
| 自己株式の取得                         |                  |         |                        | △87,182   |
| 株主資本以外の<br>項目の事業年度中の<br>変動額(純額) | △55,440          | 2,992   | △52,447                | △52,447   |
| 事業年度中の変動額合計                     | △55,440          | 2,992   | △52,447                | 577       |
| 2020年3月31日 残高                   | —                | △9,469  | △9,469                 | 3,243,018 |

(注) 金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 個別注記表

### 1. 重要な会計方針に係る事項

#### (1) 資産の評価基準及び評価方法

##### ① 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

- ・時価のあるもの 期末日の市場価格等に基づく時価法  
(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)
- ・時価のないもの 移動平均法による原価法

##### ② たな卸資産の評価基準及び評価方法

- ・永代使用权、未成工事支出金 個別法による原価法 (貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定)
- ・原材料 総平均法による原価法 (貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定)
- ・貯蔵品 最終仕入原価法による原価法 (貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定)

##### ③ デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法

#### (2) 固定資産の減価償却の方法

- ① 有形固定資産 (リース資産を除く) 定率法によっております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物 (建物附属設備を除く) 並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。
- ② 無形固定資産 (リース資産を除く) 定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間 (5年) に基づく定額法によっております。
- ③ リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

### (3) 引当金の計上基準

- |               |                                                                                              |
|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 貸倒引当金       | 債権の貸倒れに備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。               |
| ② 賞与引当金       | 従業員の賞与支給に備えるため、支給見込額により計上しております。                                                             |
| ③ 役員賞与引当金     | 役員賞与の支出に備えるため、事業年度における支給見込額に基づき計上しております。なお、当事業年度に係る役員賞与は支給しないため、当事業年度末において役員賞与引当金は計上しておりません。 |
| ④ 退職給付引当金     | 従業員の退職給付に備えるため、事業年度の末日における退職給付債務の見込額（簡便法）に基づき計上しております。                                       |
| ⑤ 役員退職慰労引当金   | 役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。                                                     |
| ⑥ 霊園開発評価損失引当金 | 霊園開発投資案件の進捗状況を勘案し、個別に回収可能性を判断し、評価損失見込額を計上しております。                                             |

### (4) その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

- |               |                                                |
|---------------|------------------------------------------------|
| ① ヘッジ会計の方法    | 繰延ヘッジ処理によっております。                               |
| ・ヘッジ会計の方法     | ヘッジ手段 … 金利スワップ                                 |
| ・ヘッジ手段とヘッジ対象  | ヘッジ対象 … 借入金                                    |
| ・ヘッジ方針        | 当社内規に基づき、金利変動リスクをヘッジしております。                    |
| ・ヘッジ有効性評価の方法  | ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。 |
| ② 消費税等の会計処理方法 | 税抜方式によっております。                                  |

### 2. 会計方針の変更に関する注記

該当事項はありません。

### 3. 表示方法の変更に関する注記

該当事項はありません。

#### 4. 貸借対照表に関する注記

##### (1) 担保に供している資産及び担保に係る債務

###### ① 担保に供している資産

|      |             |
|------|-------------|
| 定期預金 | 517,933千円   |
| 建物   | 607,476千円   |
| 土地   | 1,780,397千円 |
| 計    | 2,905,807千円 |

###### ② 担保に係る債務

|       |             |
|-------|-------------|
| 短期借入金 | 1,126,619千円 |
| 長期借入金 | 2,457,575千円 |
| 計     | 3,584,194千円 |

(注) 短期借入金には、1年内返済予定の長期借入金1,126,619千円が含まれております。

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 1,329,578千円

###### (3) 保証債務

次の法人の借入債務に対し、債務保証を行っております。

宗教法人威徳寺（金融機関等からの借入に対する保証） 2,087,220千円

#### 5. 株主資本等変動計算書に関する注記

##### (1) 当事業年度の末日における発行済株式の種類及び総数

普通株式 1,374,101株

##### (2) 当事業年度の末日における自己株式の種類及び数

普通株式 214,628株

##### (3) 剰余金の配当に関する事項

###### ① 配当金支払額等

該当事項はありません。

###### ② 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度になるもの

| 決議予定                 | 株式の種類 | 配当の原資 | 配当金の総額 | 1株当たり配当額 | 基準日        | 効力発生日      |
|----------------------|-------|-------|--------|----------|------------|------------|
| 2020年6月22日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 利益剰余金 | 34百万円  | 30円      | 2020年3月31日 | 2020年6月23日 |

## 6. 税効果会計に関する注記

### (1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

|             |            |
|-------------|------------|
| 繰延税金資産      |            |
| 未払事業税       | 3,316千円    |
| 貸倒引当金       | 7,952千円    |
| 繰越欠損金       | 14,160千円   |
| 退職給付引当金     | 99,941千円   |
| 役員退職慰労引当金   | 45,155千円   |
| 貸倒損失        | 162千円      |
| 賞与引当金       | 8,604千円    |
| 霊園開発評価損失引当金 | 256,687千円  |
| その他         | 108,557千円  |
| 繰延税金資産小計    | 544,537千円  |
| 評価性引当額      | △381,102千円 |
| 繰延税金資産合計    | 163,434千円  |
| 繰延税金資産の純額   | 163,434千円  |

### (2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

|                    |        |
|--------------------|--------|
| 法定実効税率             | 30.6%  |
| (調整)               |        |
| 交際費等永久に損金に算入されない項目 | 0.1%   |
| 住民税均等割等            | 6.5%   |
| 評価性引当額             | △30.3% |
| その他                | △0.1%  |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率  | 6.8%   |

## 7. 金融商品に関する注記

### (1) 金融商品の状況に関する事項

#### ① 金融商品に対する取組方針

当社は、事業投資計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入や社債発行）を調達しております。一時的な余資は主に流動性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

#### ② 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である完成工事未収入金及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、取引先宗教法人等に対し長期貸付を行っております。差入保証金は、霊園の募集及び墓石工事施工権利の確保を目的として霊園経営主体に差し入れております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが1ヶ月以内の支払期日であります。

借入金及び社債は、主に事業投資及び設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、償還日は最長で決算日後7年であります。このうち一部は、金利の変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引（金利スワップ取引）を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、借入金及び社債に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の1. 重要な会計方針に係る事項「(4)その他計算書類作成のための基本となる重要な事項、① ヘッジ会計の方法」をご参照ください。

#### ③ 金融商品に係るリスク管理体制

##### イ. 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、販売管理規程及び経理規程に従い、営業債権及び長期貸付金について、各事業部門における営業管理部署が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに回収状況及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

デリバティブ取引については、取引相手先を高格付を有する金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。

##### ロ. 市場リスク（金利等の変動リスク）の管理

当社は、借入金及び社債に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限及び取引限度額等を定めた管理規程に従い、担当部署が決裁担当者の承認を得て行っております。

##### ハ. 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を把握するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

#### ④ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

## (2) 金融商品の時価等に関する事項

2020年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

|                | 貸借対照表計上額(*1) | 時価(*1)      | 差 額      |
|----------------|--------------|-------------|----------|
| ① 現金及び預金       | 1,666,352千円  | 1,666,352千円 | －千円      |
| ② 長期貸付金 (*2)   | 68,864       | 68,611      | △253     |
| ③ 差入保証金 (*3)   | 3,110,290    | 2,678,147   | △432,143 |
| ④ 長期未収入金(*2)   | 341,936      | 275,477     | △66,458  |
| ⑤ 短期借入金        | (116,767)    | (116,767)   | －        |
| ⑥ 長期借入金(*4)    | (4,534,203)  | (4,473,487) | △60,715  |
| ⑦ 社債(*5)       | (319,750)    | (319,898)   | 148      |
| ⑧ デリバティブ取引(*6) | (13,648)     | (13,648)    | －        |

(\*1)負債項目については( )で示しております。

(\*2)長期貸付金及び長期未収入金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(\*3)差入保証金については、敷金等の非営業保証金を控除しております。

(\*4)長期借入金には1年内返済予定の長期借入金(1,623,642千円)を含んで表示しております。

(\*5)社債には1年内償還予定社債(204,750千円)を含んで表示しております。

(\*6)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については( )で示しております。

(注) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

① 現金及び預金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

② 長期貸付金、③ 差入保証金、④ 長期未収入金

これらは一定の期間ごとに分類し、元利金の合計額を同様の新規貸付若しくは与信供与を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

また、貸倒懸念債権については、回収見込額により、時価を算定しております。

⑤ 短期借入金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。

⑥ 長期借入金

元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

⑦ 社債

元利金の合計額を、同様の新規社債発行を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

⑧ デリバティブ取引

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

8. 関連当事者との取引に関する注記

重要性のある取引がないため、記載を省略しております。

9. 1株当たり情報に関する注記

|                |           |
|----------------|-----------|
| (1) 1株当たり純資産額  | 2,796円98銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 114円97銭   |

## 10. その他の注記

(追加情報)

(財務制限条項)

- (1) 横浜銀行をアレンジャーとするシンジケートローン契約(借入金残高9千4百万円)に係る財務制限条項

下記の状況になった場合は、期限の利益を失い、一括返済することとなっております。

- ① 通常事項：会社の破産・清算等および返済を遅延したとき
- ② 特記事項：決算数値において
  - a. 単体の貸借対照表における純資産の部の金額を、当該決算期の直前の決算期末日の金額または2011年3月期末の金額のいずれか大きい方の75%以上を維持出来なかったとき。
  - b. 単体の損益計算書上の経常損益につき2期連続して損失を計上したとき。

- (2) 宗教法人威徳寺のシンジケートローン契約(債務保証残高20億8千7百万円)に係る保証人としての財務制限条項

下記の状況になった場合は、期限の利益を失い、一括返済することとなっております。

- ① 通常事項：借入人または保証人の破産・清算等および返済を遅延したとき
- ② 特記事項：保証人の決算数値において
  - a. 単体の貸借対照表における純資産の部の金額を、当該決算期の直前の決算期末日の金額または2014年3月期末日の金額のいずれか大きい方の75%以上を維持出来なかったとき。
  - b. 単体の損益計算書上の経常損益につき2期連続して損失を計上したとき。

# 会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

2020年5月25日

株式会社ニチリョク

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人  
東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 原 山 精 一 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 森 田 高 弘 ㊞

### 監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社ニチリョクの2019年4月1日から2020年3月31日までの第54期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書(以下「計算書類等」という。)について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

## 監査役会の監査報告

### 監 査 報 告 書

当監査役会は、2019年4月1日から2020年3月31日までの第54期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。
  - ①取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。
  - ②事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
  - ③会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ①事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ②取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実  
は認められません。
- ③内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内  
部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘  
すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人EY新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2020年5月25日

### 株式会社ニチリョク 監査役会

常勤監査役 宮 崎 芳 光 ㊟  
社外監査役 藤 原 道 夫 ㊟  
社外監査役 丸 野 登 紀 子 ㊟

以 上

## 株主総会参考書類

### 第1号議案 剰余金の処分の件

剰余金の処分につきましては、業績の改善がみられたことから、以下のとおり復配いたしたく存じます。

#### 期末配当に関する事項

- (1) 配当財産の種類  
金銭といたします。
- (2) 配当財産の割当てに関する事項及びその総額  
当社普通株式 1株につき金30円  
配当総額 34,784,190円
- (3) 剰余金の配当が効力を生じる日  
2020年6月23日



### 第3号議案 監査役2名選任の件

監査役 宮崎芳光及び藤原道夫の各氏は、本総会終結の時をもって任期満了となります。

つきましては、監査役2名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案に関しましては、監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は、次のとおりであります。

| 候補者<br>番号 | ふり<br>氏<br>名<br>(生年月日)       | 略歴、当社における地位<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                 | 所有する当<br>社の株式数     |
|-----------|------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 1         | ※<br>宮 下 利 明<br>(1953年1月19日) | 1976年4月 オールドパー株式会社入社<br>1999年6月 当社入社<br>2013年4月 当社執行役員サービス推進本部<br>葬祭事業部長<br>2016年6月 当社取締役サービス推進本部<br>葬祭事業部長<br>2019年4月 当社取締役サービス推進本部<br>堂内陵墓事業部長<br>2020年4月 当社取締役社長室長(現任) | 株<br><br><br><br>— |
| 2         | ※<br>野 口 和 弘<br>(1957年6月6日)  | 1985年9月 監査法人中央会計事務所入所<br>1989年3月 公認会計士登録<br>2000年7月 中央青山監査法人パートナー<br>2007年7月 新日本監査法人入所 シニアパートナー<br>2019年6月 EY新日本有限責任監査法人退職<br>2019年7月 野口和弘公認会計士事務所設立(現任)                  | 株<br><br><br>—     |

- (注) 1. ※印は、新任の監査役候補者であります。
2. 各候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
3. 宮下利明氏は、本総会終結の時をもって、当社取締役を退任いたします。
4. 野口和弘氏は、社外監査役候補者であります。
5. 野口和弘氏を社外監査役候補者とした理由は、同氏が公認会計士としての豊富な経験と幅広い見識を有しており、それらを当社の社外監査役として当社の監査に活かしていただきたいためであります。なお、同氏は社外役員となること以外の方法で会社の経営に関与したことはありませんが、公認会計士として企業会計に精通しており、当社の社外監査役としてその職務を適切に遂行できるものと判断しております。
6. 宮下利明氏及び野口和弘氏の選任が承認された場合、当社は両氏との間で会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第425条第1項に定める最低責任限度額を限度として同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結する予定であります。

#### 第4号議案 退任監査役に対し退職慰労金贈呈の件

本総会終結の時をもって任期満了により退任されます監査役宮崎芳光氏及び社外監査役藤原道夫氏に対し、それぞれ在任中の功労に報いるため、当社における一定の基準に従い、相当額の範囲内で退職慰労金を贈呈することといたしたく存じます。

なお、その具体的金額、贈呈の時期、方法等は、監査役の協議にご一任願いたいと存じます。

退任監査役の略歴は、次のとおりであります。

| 氏名   | 略歴                  |
|------|---------------------|
| 宮崎芳光 | 1995年6月 当社常勤監査役(現任) |
| 藤原道夫 | 2012年6月 当社社外監査役(現任) |

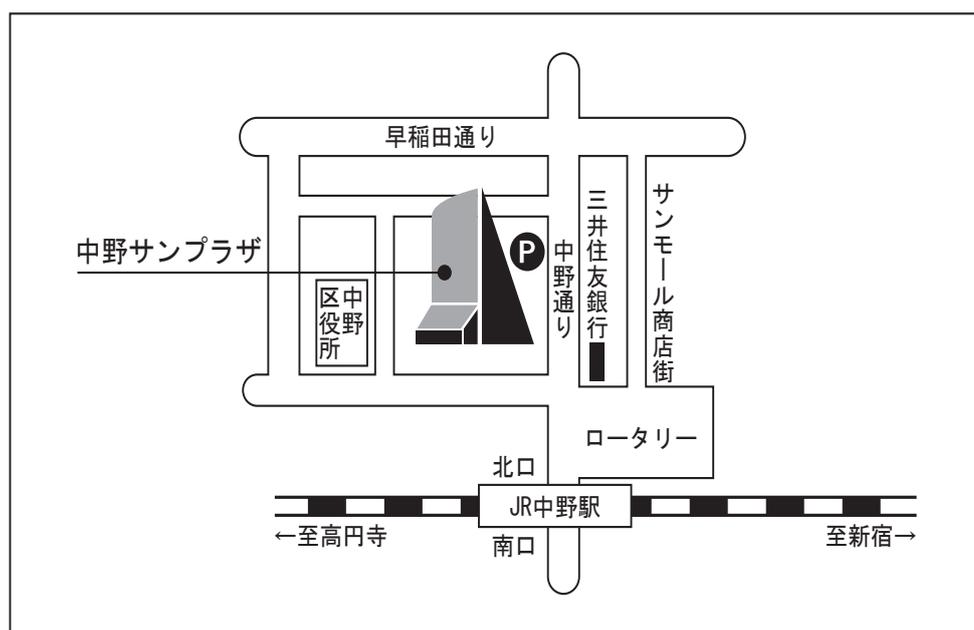
以上

メ モ

A series of 18 horizontal dashed lines for writing.

## 株主総会会場ご案内図

会 場 東京都中野区中野四丁目1番1号  
中野サンプラザ 14階 クレセントルーム  
電話 03 (3388) 1151 (代表)



(最寄駅)

中野駅 (JR中央線・総武線・東京メトロ東西線) 北口より徒歩約1分